

講義名	対1)行政学				授業形態	
担当教員	村上 友章／岸野 啓一	開講期・曜日・時間		前期 火曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング

主題と概要						
【目的】 この授業は行政学に関わる基本的な知識・理論を習得し、それらを用いて現代行政の諸問題を考察する能力を養うことを目的とする。 【内容】 講義は、第一に、行政の歴史や行政学の発展を辿り、第二に、現代行政の仕組み・組織を概観し、第三に、行政内部の政策決定を学び、最後に、現代行政が直面する課題を考える。本授業は教科書を用いた予習を毎回、課す。受講生は、各回の該当箇所をよく読み、演習問題に取り組み、授業に臨むことになる。講義は、そうした予習を前提として進められる。 【意義】私たちの暮らしと密接な関係にある行政を理解し、それについて深い洞察を示すことを目指す。こうした本授業の目的・内容は、まさに「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソンを育成する」という本学ディプロマポリシーに合致するものである。とりわけ本授業は、行政の担い手たんとする公務員志望者には必須である。						
到達目標						
・ 行政学の基本的な概念やキーワードについての正確な知識を習得できるようになる。 ・ 公務員制度や政官関係など現代の行政を支える制度的な仕組みについて正確に理解できるようになる。 ・ 私たちが直面している政治的な諸問題が、どのような歴史的背景から生じているのかを理解できるようになる。 ・ 行政学の基本概念を用いて、現代社会の諸問題について考察し、自分なりの見解を説明できるようになる。 ・ 教科書の熟読を通じて、社会人としては必須の読解力を身に付けることができる。 以上の観点を通じて、受講生は、本学のディプロマポリシーが掲げる資質・能力（「論理的思考力」「課題発見力」「構想力」「ビジネスパーソンとしての基礎能力」等）を習得できるようになる。						
提出課題						
【毎回の予習・復習レポート】 基本的に毎回、予習として教科書の該当箇所を読み、あらかじめ指示された演習問題を解き、それらをレスポンスを通じて提出する。また授業後には復習問題にも取り組み、レスポンスを通じて提出する。 【学期末レポート】 学期末には、授業で学んだ行政学の諸理論を用いて、現代社会の諸問題を考察する期末レポートを課す（1000文字以上）						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
・ 毎回の予習・復習課題については、授業中に解説を行う。						
評価の基準						
・ 評価は、毎回の予習・復習レポート（５０％）と期末レポート（５０％）を合算して行なう。 両レポートとも、教科書および講義で説明された内容が正確に理解できているかどうか、そのうえで自分なりの立場や見解が論理的に説明できているかどうか、評価の基準となる。						
履修にあたっての注意・助言他						
・ 「政治学」の授業をあらかじめ履修しておくことを強く推奨する。 ・ 本授業は教科書を用いた予習・復習を毎回、課す。そのため教科書は必ず手元になければならない。 ・ 教科書の内容は授業中に解説するので、本を読むのが苦手な学生も、予習・復習を粘り強く続ければ読解力は身に付くだろう。他方、教科書で予習・復習をする覚悟の無い学生には、この授業は意味がない。						
教科書						
.新版 現代の行政(第2版) .		森田 明		第一法規	2200	9784474077003
.公務員という仕事.		村木 厚子		筑摩書房	946	9784480683762
参考図書						
.なし.						

その他			
・ 授業ごとに必要に応じてポータル等を通じて資料を配布する。			
授業計画			
1、はじめにー公務員とは何か。行政とは何か。 【第1部】公務員とは何か 2、公務員とは何か（1） 3、公務員とは何か（2） 4、公務員とは何か（3） 5、公務員とは何か（4） 【第2部】行政のしくみ 6、現代の政府体系 7、内閣制度と国地方関係 8、官制 9、現代組織論 10、日本の行政組織 11、人事制度と財務管理 【第3部】行政の活動 12、行政活動と政策 13、政策の決定 14、政策の執行 15、政策の評価 1～13は村上が担当、14・15は岸野が担当予定。			
授業形態（アクティブ・ラーニング）			
ア：PBL（課題解決型学習）		○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート			エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション			カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（AL型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
・ 毎回の提出課題である「予習・復習レポート」の作成に毎週4時間程度を要する。 ・ 予習・復習レポートの教科書参照箇所や演習問題は、授業中に指示する。			
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連			
(1) 本授業の目的・内容は、以下の本学のディプロマポリシーと関連する。 【共通】人間的・社会的・職業的に発達して身につけておくべき資質・能力 ①「ネアカのびのび へこたれず」の精神をもった人材 ②知識を効果的に転換することができる。論理的思考力を持った人材 ③創造力、新しい視点と豊かな発想 を持った人材 ④自主・自立の精神を持った人材 ⑤仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材 (2) 本授業の目的・内容は、以下の経済学部経済学科のディプロマポリシーに大きく貢献できる。 【共通】人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる。 【現代経済コース】世の中の動きを理解して、経済問題を中心に現代社会の諸問題に解決策を提案することができる。 【地域まちづくりコース】経済学を基礎にして、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案することができる。			
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述			
・ クリッカー（レスポンス）を用いて、予習・復習レポートおよび学期末レポートを課す。 ・ 授業中に、クリッカー（レスポンス）を用いて、質疑応答やアンケートを行う。			
実務経験の有無及び活用			
実務経験あり。 業務で得た知見や事例などを授業で紹介することにより、具体的な理解の促進を図る。			
備考			
・ 履修生のリクエスト等に応じて、授業計画は柔軟に変更することもありうる。			